

ケース検討事例

初回相談日	R5.9.25	障害自立/認知症	J 1/II b
年齢/性別	70歳 男性	要介護区分	要支援 2
特徴(要となる問題点)	1. 意欲低下 2. 筋力低下 3. 認知症 4. 心肺機能低下(持病の悪化) 5. その他()		
申請・相談内容	精密会社の事務職として68歳(初回相談日の1年半前)まで働いた。R5.6に1人で車で出かけ、事故をおこし、警察官から住所を聞かれたが上手く答えられなかった。この時以降、1人で外出すると家に戻れなくなることがあり、警察に保護されたこともあった。R5.9にアルツハイマー型認知症の診断があり、HDS-R20点。メモリーの服薬開始。日中、独居になるため、見守りが必要で何らかの支援を受けたい。		
住環境 世帯・家族情報	平地の県営住宅の2階で妻と2人暮らし。子どもはいない。歩行は自立しているため、住宅の階段昇降は可能。退職するまで忙しく働いていたため、友人や近所付き合い、県営住宅内での関わりはない。妻は9時から16時ぐらいまで4日/週程度働いている。		
身長 体重 BMI	身長 164cm 体重 57kg BMI 21.2		
医療情報	【内科】通院中 高血圧 【整形外科】通院なし 時々腰痛がある 【脳神経内科】通院中 アルツハイマー型認知症		
服薬情報	【内科】アダラート(20)2錠 2回(朝・夕)、モーラステープ(腰が痛い時貼用) 【脳神経内科】メモリー(20)1錠 朝1回		
生活状況 (今までの生活含む)	事務職として45年ほど勤務。真面目で責任感が強い性格で、仕事中心の生活だった。時々夫婦で旅行を楽しんだが、特別な趣味はないという。退職してからも特にしたいこともなく、1日テレビや新聞を見て過ごしていた。 R5.4以降、徐々に買い物の支払いが困難な様子が伺えたり、依頼したことを忘れてたり、物の紛失が目立つようになった。R5.6に事故をおこし、R5.9に認知症の診断が下り、渋々車の運転免許を返納。1人で外出すると、戻って来ることが難しくなり、警察に保護されることもあった。また、朝「仕事に行く。」と言い、スーツを着て会社に行こうとするため、退職したことを説明すると一旦は納得するが、翌日には忘れて同じ行動をする。納得せず外に出てしまう時は、妻は本人の後をついて行き、タイミングを見計らって家に帰るように促している。		
望む暮らし	本人：高齢者がいるデイサービスにはまだ行きたくない。 妻：日中、1人で過ごすため、家に戻れなくなることが心配。 仕事しかしてこなかった人が、見守ってもらいながら通える場所があると良い。		
フォーマルサービス	・見守りネットワーク、見守りシール、認知症高齢者個人賠償責任保険加入		
インフォーマルサービス			
モニタリング・評価	状況	妻は介護保険の通所サービスを利用してほしい気持ちはあるが、本人は必要としていないため、介護保険サービスの利用はない。介護予防教室やサロンを提案したが、興味がなく繋がらなかった。本人が「仕事に行く。」と家を出てしまう時は、妻は付き添い、家に戻れるよう対応している。	

(高齢者福祉課の補足説明)

- ・情報はこの紙面のみです。実際に支援にかかわる場合は、趣味はないのか、仕事は何をしていたのかなど、もっと多くの情報を収集しようと思いますが、本日の会議で検討する、この事例では、仕事を一生懸命頑張ってきた方で、職業は事務職という以外情報はない状態です。この情報から推測して、どう支援していくか検討していきます。